

# 小学校 第5学年 国語科書写 学習指導案

東京都練馬区立大泉南小学校  
主任教諭 田邊 佳代子

- 単元名** 文字の大きさ（漢字どうし） — 『自然』（2時間）
- 単元のねらい**
  - 漢字どうしの形や大きさの違いを理解し、つり合いに気をつけて書くことができる。
  - 漢字どうしの大きさを確かめて、硬筆で字形を整えて書くことができる。
- 本時のねらい** 漢字どうしの形や大きさの違いを理解し、つり合いに気をつけて書くことができる。（第1時）
- 指導時期** 9月

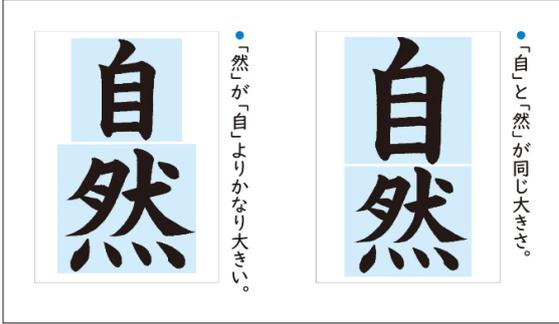
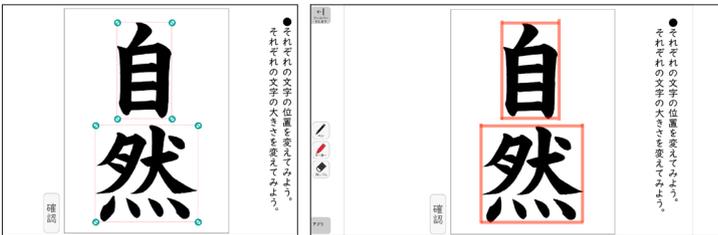
## 「指導者用デジタル教材」活用の意図・目的

動画教材を用いることで、用具の準備や持ち方、姿勢といった書く前段階の確認がいつでも手軽に行える。また、書く場面では、教師が「書いて見せる」必要がなく、筆使い、運筆の様子を繰り返し視聴することができる。

紙の教科書のみを用いた書写指導では、掲載されている教材文字（手本）を見て、教材文字どおりに書くことを求める「字形指導」が中心となってしまうことが危惧されている。しかし、デジタル教材を用いて運筆動画を視聴することで、本来大切にされるべき書字過程に着目させ、指導をすることができる。教師が筆を持って書いて見せなくても、デジタル教材を上手に活用すれば、充実した書写の授業が展開できる。デジタル教材の活用によって、書写の授業の中で、児童が思考する場面を作り出すことが容易になる。

## 本時（第1時）の展開

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入 つかむ 考える	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「指導者用デジタル教材」の初期画面を開いてコンテンツを起動する。</li> </ul>	<div data-bbox="842 1393 1398 1704" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 大型モニターに姿勢図（拡大スライド）を提示しておく。 ※初期指導の際には、用具の準備動画を活用することも考えられる。</li> </ul> <div data-bbox="842 1818 1398 2130" data-label="Image"> </div>

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
導入 つかむ 考える	<p><b>【ためし書きをしよう】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 硬筆・毛筆で『自然』を試書する。</li> <li>■ <b>T</b>：教科書を見ずに『自然』を書きましょう。</li> </ul> <p><b>【めあてを知ろう】</b></p> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>めあて</b> 漢字どうしの形や大きさのちがいに気をつけて、字形を整えて書こう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 漢字どうしの大きさの違いについて学習することを理解する。</li> </ul> <p><b>【考えよう】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 漢字どうしのつり合いをとるには、どんな大きさで書いたらよいか考える。</li> <li>■ <b>T</b>：『自』と『然』、どちらも漢字です。同じ大きさを書いたらどうでしょうか。</li> <li>◎：同じ大きさを書くと、『自』が大きく見えてしまうよ。</li> <li>◎：どちらも漢字だけど、画数が違う。『自』が小さいほうが、つり合いがとれると思う。</li> <li>◎：『自』が小さすぎるのも、バランスが悪いね。</li> <li>■ <b>T</b>：シミュレーションを操作し、つり合いがとれる大きさを見つけましょう。</li> </ul> <div style="border: 1px solid orange; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>漢字どうしの大きさ</b> 画数の少ない漢字は、小さめに書くと、つり合いがとれる。</p>  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 試書を批正し、自分の課題を見つける。</li> <li>■ <b>T</b>：比較ツールを使って、教科書の文字と試し書きを比べ、自分の課題を見つけましょう。</li> <li>◎：『自』が『然』と同じくらいの大きさだから、小さく書こう。</li> <li>◎：『然』の8画めが『自』にくっついてる。</li> <li>◎：『然』の9画めの「点」の向きに気をつけよう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各自のタブレット端末で試書を撮影し、保存する。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>● p.23の二つの『自然』（拡大スライド）を提示し、見比べて考えさせる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin: 10px 0;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>● p.23のシミュレーションを開き、「学習者用デジタル教材」で児童それぞれが実際に操作しながら、視覚的に最適な大きさを考える。または、「指導者用デジタル教材」で児童の反応を確認しながら、教師が操作してもよい。</li> </ul> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin: 10px 0;">  </div> <p>マーカー機能を使って外形を囲むと、大きさの違い、字形が捉えやすい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 比較ツールを開き、タブレット端末で撮影した試書と教材文字を比べる。課題をペンで書き込む。</li> </ul> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin: 10px 0;">  </div>

	活動内容	デジタル教科書・教材の活用
<p>展開 確かめる</p>	<p><b>【練習をしよう】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 運筆動画に合わせて空書きをする。</li> <li>■：運筆動画を見ながら、一緒に空書きをしましょう。</li> <li>● 漢字どうしの大きさに気をつけて、『自然』を書く。</li> <li>● 自分の課題に合った練習用紙を選択したり、児童自身が作成したりして練習する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 大型モニターに p.22 の運筆動画を映す。動画に合わせて空書きをしながら、ポイントを確認する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>● 練習中も、運筆動画を繰り返し流しておく。各自のタブレット端末を用いて、児童が各々必要な動画を流し、確認することも考えられる。</li> </ul>
<p>まとめ 振り返る</p>	<p><b>【まとめ書きをしよう】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 『自然』を毛筆でまとめ書きする。</li> </ul> <p><b>【振り返ろう】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 試書とまとめ書きを比べて、自己評価・相互評価をする。</li> <li>◎：『自』を『然』よりも小さく書いたら、つり合いがとれるようになった。</li> <li>◎：『然』の9画めの「点」の向きに気をつけて書けた。</li> <li>● 次時の課題をもつ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 各自のタブレット端末でまとめ書きを撮影し、保存する。</li> <li>● 比較ツールを用いて、試書とまとめ書きを比べる。本時の学習を振り返るとともに、次時の課題をもつ。</li> </ul>  <p><b>評価</b> 漢字どうしの形や大きさの違いを理解し、つり合いに気をつけて書いている。(知識及び技能)</p>

## 「指導者用デジタル教材」を活用したことで得られた効果

### 「教師が教える授業」から「子どもたちが自ら学び取る授業」へ～主体的・対話的で深い学びを目指して～

デジタル教材には、学びのための道具としてさまざまなコンテンツや機能が搭載されている。それらを上手に活用することで、これまで紙の教科書では難しかった書写指導の充実を図ることができる。児童が主体的・対話的に学ぶ授業作りに、大いに役立てたい。

#### ● 運筆動画の活用

「文字の完成形だけを示す従来の指導では、本来大切にすべき運筆動作に目を向けさせにくいという欠点があった。児童はどうしても教材文字に近づける、教材文字どおりに書くことに意識が向き、筆を動かすリズムや筆圧の強弱といった、手書き文字において重要な要素に気づくことが難しい。しかし、運筆動画を活用することで、教師が自ら筆を持たずとも、書字過程を効果的に示すことが容易になる。指導をする側の意識としても、書いた結果のみならず、書いている過程に目を向けていくことを忘れず、児童に対して必要な声かけを行っていきたい。

また、運筆動画一つにしても、用紙全体を映し出したものに加え、穂先の動きがわかりやすいものもある。児童一人一人が、自分の目的に応じて、必要な場面でそれらを活用することができる点は、デジタル教材の大きなメリットだと言える。自らの課題解決に向け、適切に動画を選択し、活用できる力を育てていきたい。

#### ● 比較ツールの活用

本時では、導入とまとめの段階で、比較ツールを用いる場面を設定した。

導入では、タブレット端末で撮影した試書と教材文字を並べて比較し、ペン機能を使って直接書き込みをすることで、自分の課題に気づかせる。自分の課題を明確にすることは、「教師が教える」だけの授業から、児童が自ら考え、学び取る「課題解決型」の授業へと変化する。

まとめの場面では、試書とまとめ書きを並べ、自己評価・相互評価をする際に用いる。タブレット端末の画面に、文字を並べて表示できるので、自己の変容とその理由を自覚しやすいうえ、児童どうしの交流も手軽に行えるといった利点がある。互いに変容を認め合うことが自信となり、学習に対する意欲の高まりにもつながっていく。

また、書いた文字を毎時間撮りだめ、学びの記録として残しておけば、一単位時間のみならず、前時からの変容、前単元からの変容、さらには一年前からの変容にも気づかせ、自身の成長を実感させることができるのではないかな。

デジタル教材に搭載されているさまざまなコンテンツや機能を、学習内容に応じて組み合わせ、活用することで、書写の学びを深めていきたい。